

県内にあった毒ガス演習場について (菊池実講師)

①前橋市出身の戦死兵

所持の手帳のこと

昨年9月16日、アメリカのアンドリュースさんからNPO法人キセキ遺留品返還プロジェクト(イリノイ州)に次のようなメールが届いた。「(2015年に亡くなった)父がフィリピン参戦中に命を奪った日本兵から回収した写真や絵ハガキなどがたくさんあります。これらの品々を残された親族に返してほしいというのが父の願いでした。ご協力いただけませんか。」

キセキに届いた画像の中に人名簿があり、群馬県前橋近辺(旧木瀬村、宮城村など)の約90名の住所と名前が記されていた。キセキから協力を依頼されたNHK関係者から相談された菊池さんが調査、この人名簿の所持者は、その側面に住所と名前がカタカナで「セタゲン キセムラ オオワザ シモマスダ コバヤシ カツキチ」と書かれており、群馬県遺芳録で調べると、1945(昭和20)年3月9日フィリピンで戦死した小林勝吉さんであることがわかった。小林さんの親族は見つかったが、受け取りは丁寧に固辞された。名簿の内、菊池さんがたどり着けたのは3名で、名簿は戦友の名前を記したのではないと思われる。

1971年からオハイオ州在住の医師、加治安彦氏が旧日本兵の遺留品を私財を投じて収集し日本に返還する活動をしていた(加治氏は2年前に死去)。その活動はNPO法人キセキ遺留品返還プロジェクト(代表・ジャガード千津子さん)に引き継がれている。2000年以降、旧日本兵の遺留品はオークションに出品されることが多く、キセキはその一部を落札するなどして返還に取り組んでいる。

②県内にあった

毒ガス演習場について

昨年6月、昭和村で旧日本軍の化学弾(毒ガス弾)とみられる砲弾が見つかった。戦時



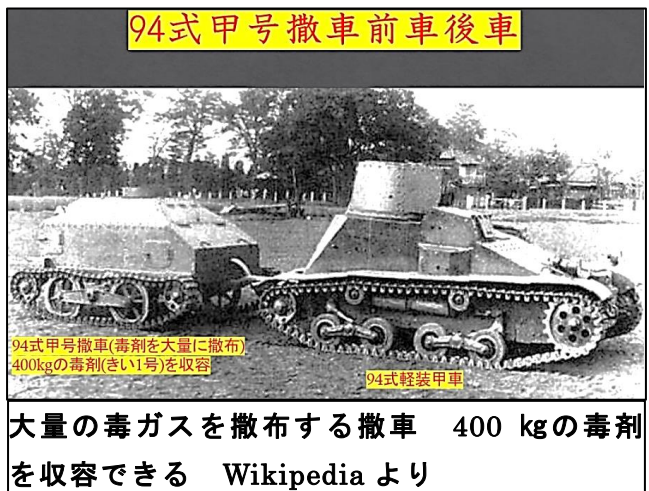
毒ガス弾
(山本達也『日本の化学兵器』より)
左「あか」弾(くしゃみ性)
右「きい」弾(びらん性)
砲弾に赤や黄の色がついている。
全長約430ミリの軽迫撃砲弾。

中、同村と沼田市にかけて、片品川が利根川に合流する赤城山北麓一帯には陸軍赤城演習場があった。

ここは陸軍の単なる演習場ではなく、毒ガス専用の特殊演習場だった。ここに内地で唯一の化学戦部隊である陸軍迫撃第1連隊(東部第41部隊)が駐留し、化学戦の将校らを養成した陸軍習志野学校の特殊演習場、陸軍技術本部秘密兵器試験射場としても使用された。

また、陸軍病院や気象観測所も設置され、陸軍病院はこの部隊の軍人軍属専用の病院で、毒ガス演習で負傷した者などを治療した。

この演習場跡地は戦後農家が入植し開拓して酪農や高原野菜の産地になった。



【日本の化学兵器の研究開発】

- ◇ 大正 8(1919)年に設立された陸軍科学研究所(後に第 6 陸軍技術研究所)が研究開発。
- ◇ 昭和 3(1928)年から広島県大久野島の忠海兵器製造所で毒ガスの製造。
- ◇ 昭和 8 年に創設された陸軍習志野学校で化学戦の運用・教育。
- ◇ 昭和 12 年から福岡県の曾根兵器製造所で毒ガスを各種砲弾に填充。中国大陸で実戦使用。
- ◇ 昭和 14 年、満洲のチチハルに関東軍化学部(516 部隊)。そして沼田周辺に内地唯一の毒ガス演習場と化学戦部隊の移駐。



【敗戦後の化学兵器の行方】

- ◇ 遺物として検出されるものは次のものが考えられる。
焼却文書、武器・弾薬類、毒ガス溶剤など。
- ◇ 焼却文書はこれまでも幾つかの遺跡から発見されている。
- ◇ 陸軍特殊演習場跡には第 6 陸軍技術研究所や沼田陸軍病院保管の毒ガス溶剤が秘密裏に遺棄された可能性を指摘できる。
となれば、今日まで残存しているものと思われる。
- ◇ 赤城演習場の化学兵器は広大な敷地の中に軍が組織的に処分した可能性が高い。

- ◇ 日中戦争で日本軍は中国で化学兵器を使用し、敗戦時、地中に埋めたり河川に投棄したりしたため、戦後、中国各地で化学兵器に触れて死傷者が出た。
- ◇ 日本政府はその補償をするとともに、2022 年度末までに約 9 万 8 千発の化学砲弾を回収している。

【質疑応答】

(問) 迫撃第 1 連隊が昭和 15 年に松江で新設

され、16 年には沼田に移駐したのはなぜ。

(答) 毒ガス戦対応の演習場は広大な敷地が必要で、赤城演習場が選定されたのではないか。

(問) 復員式とはなにか。

(答) 敗戦時、全部隊で行われた。武器を回収(連合軍に渡す)、部隊長訓示などがあり、兵隊は故郷に帰る。武器を引き渡す時に、毒ガス弾などが引き渡された形跡がない。

(問) 昭和村に総合運動公園があるが、私の父が地元の建設会社で工事をやっていた時に迫撃砲弾を見つけていた。また、迫撃弾が見つかった牧場のあたりにはトーチカなどもあったと聞いた。

(答) トーチカや観測する施設はあったと思う。陸軍技術本部秘密兵器試射場というのがあって、特殊兵器の試射をしていたらしいが、実態はよくわからない。初年兵の教育でも、最初は木で作った木弾を使い、段階を踏んで最後は毒ガス弾を使って実際に訓練をやっていた。

(問) 今、地元の人達は演習場が化学兵器の特殊演習場だったことを認識しているか。

(答) 陸軍の演習場ということだけで、毒ガス兵器用の演習場だったことはほとんどの人が知らないのではないか。

(問) 訓練では実際に毒剤を撒布したか。

(答) 撒布したり、迫撃砲弾でやったりしていた。それで障害を負った兵士は陸軍沼田病院で治療を受けた。

(文責 設楽春樹)